

仏法領ぶつぱうりょう 第六十四号



豪壮さと彫刻の優美さで知られる山門



発行：真宗大谷派
念信寺
☎ 0930-42-0329
Fax 42-0502
ホームページ
nenshiji.org

四日市別院の歴史と修復

真宗大谷派 四日市別院（大分県宇佐市四日市）

は、十六世紀中頃に開かれた真勝寺を起原とし、延享元年（1744年）には本山・東本願寺の別院となり、九州御坊となりました。明治初年の御許騒動の折、本堂は焼失しましたが、山門と経蔵は残りました。

重層の山門は九州最大といわれ、大分県の文化財に指定されています。

本堂は明治3年に再建され130年ほど経過して屋根等の痛みが激しく、門信徒有縁の御懇意により、この度修復されました。

山門を出ると、門前町が広がります。御正忌報恩講（十二月中旬）の際は、老若男女、多くの人で賑わいました。近ごろまで本堂で寝るための大布団が保管されていました。

京都・田川、犀川の御門徒もよくお参りをし、犀川二十八日講のメンバーが報恩講の折には泊まり込みで世話方を担当しています。またそのための部屋が確保され、布団も自分たちで管理し手入れをしています。

※なお、2010年度から2015年度（本年度）までの6カ年度間の御遠忌・修復の総予算額は7億7千万円で、そのうち修復にかかった費用が太鼓楼等も含めると5億5千万円です。残りの2億2千万円ほどが、6カ年度間の会議費・事務費等と御遠忌本番にかかった費用ということになるそうです。

Hさん、別院七百五十回御遠忌 法要で大役をおつとめ

Hさんは犀川二十八日講の代表として、日頃から四日市別院の運営に深く、長く関与されているものですから、この大役に選ばれたものです。

Hさんは淨土真宗大谷派（連枝・信明院）門首の叔父様様に朱傘を差し懸けるお役目を務められました。Hさんは犀川二十八日講の代表として、日頃から四日市別院の運営に深く、長く関与されているものですから、この大役に選ばれたものです。

Hさんは二十八日講の会長を務められておられる方です。このような大役は數十年に一回あるかないかの巡りあわせです。また、自ら望んでできるもの



Hさんの真剣な眼差しをご覧ください

Hさんは二十八日講の会長を務められておられる方です。

このような大役は数十年に一回あるかないかの巡りあわせです。また、自ら望んでできるもの

でもありません。

径が三尺、柄の長さ八尺の朱傘です。結構重量を感じたとのことでした。

「日本人はもちろんのこと、犀川二十八日講の皆様にとても大変光栄に思っていらっしゃることと思います。たいへん、苦労しました。」

（阿部正紀記）

念信寺だより

◆「おかみそり帰敬式」を受けました◆

御遠忌法要で法名を受与！

皆さん、帰敬式とはどういうもののかご存知でしょうか？すでに帰敬式を受けた方もおられるので、ご存知の方が多いと思いますが。



この度、新たに四日市別院で念信寺門徒の五人が帰敬式を受けられました。親鸞聖人七百五十回御遠忌法要のご縁でした。

(4) その他
京都の本山には非お参りしたい。受式を他人に勧めたいと思う。とくに受式を勧めたいとは思わない。亡くなつた時つけてもらう法名を、生きている時につけてもらいつて良かった・受式して良かった（全員）。



[参考] 帰敬式はどこで、いつ出来るか？
京都の本山では基本的に毎日実施。四日市別院では毎年「正忌の期間中、また今回のよう時に特別な法要があるとき実施。どなたでも受けられます。事前の申し込みが必要です。

法名は事前に「相談いただければ住職にかけてもらえますし、出向くのが難しい方は住職が帰敬式を執り行うこともできます。

（村上寿子 記）



帰敬式は「おかみそり」とも言われ、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依し、宗祖親鸞聖人が明らかにされた「教え」に自らの人生を歩み出すことを誓う儀式です。

「法名」（釋〇〇あるいは釋尼〇〇）が授与されます。

法名は「亡くなつてからいただければよいかが劇的に変化することはない。人生の一プロセス（過程）であるが、何か目に見えないものが心を動かし、何かの受け止め方・感じ方はまちまちで異なるということ。帰敬式を受けたから何かが劇的に変化することはない。人生の「法」であるが、何かの受け止め方・感じ方はまちまちで異なる」といふことです。

（真宗大谷派ホームページ引用）

(2) 〈帰敬式そのものは〉
肩をポンと叩かれたときは、仏さまと繋がっていると感じた（夫を亡くしているので）。もっと重いものなのか死ぬ前に自分の法名を分かつておきたかった。ところが、団体の流れにのつてすっと終わつた。受式する人が多かったのでちょっと驚いた。どんなことをするのかと思っていたが、簡単

(1) 〈帰敬式を受けたきっかけ・動機は〉
以前から受けたいと思っていた。病気をしたので。友人に勧められて。死ぬ前に自分の法名を分かつておきたかった。

单なので気合い抜けした。肩を叩かれても特に何にも感じなかつた。

とにかく何かが変化した訳ではないが、気持ちが落ち着いた。名前が決まつてるので安心だなと思った。「親鸞の弟子になるんや」と

思った。お参りした。お参りしているので安心だな

犀川一一十八日講

二十八日講は犀川仏教婦人会と合同で、農繁期をのぞき毎月のように行われています。なんともほほえましく和やかな雰囲気です。以前「真宗」に掲載された文章の一部を要約して紹介します。

犀川地区十四カ所の集落の持ち回りで行われ、会場は寺院に限らず、公民館、一般民家などで開かれています。

まず全員での勤行（正信偈・念佛・和讃）が勤まり、講に授与された御消息、つづいて大谷婦人会の消息が拝読される。そして当番法中例会



による法話が一席ずつ行われる。合間に茶菓子接待と会費（二〇〇円）集めが行われる。講が終ると、名号や消息がしまわれ、次の当番へと渡される。

門徒と住職が共に参加する立場であること



門徒会（二十八日講）
追弔会

加する立場であることで、門徒と住職が一寺院のなかだけの限定され、門徒と住職が一寺院のなかだけの限定され、門徒と住職の関係からより開かれた住職・門徒の関係へと広がっていく。この講の世話人はそのまま組や教区の門徒会員で、別院世話方としても、力添えを頂いているのである。



名号本尊

明治19年の御消息

ひと

別稿でも御登場願いま
したが、犀川上高屋在
住の H.T. さんをご紹
介いたします。

H.T.さんは昭和九年生まれで、御年八十二歳だそうです。
前日（六月五日）四町歩の田植えを終わられたそう
で、お疲れのはずのところ快く面談に応じてい
ただきました。



中学時代の
同級生は二五〇
人ほどいた。二
年おきの盆には
追弔法要を営ん
でいるが、出席できる者達の数が減つ
て今では五十人位になってしまった由。

やむをえないことかもしれません
それでも廣津さんは元気旺盛でし
た。

H.T.さんはご長男だから若い頃は
家の農業や炭焼きなどの手伝いをして
いたが、その後は北九州で会社勤めし
ていた。定年まで働いて上高屋に帰つ
てきたとのことです。

農業の傍ら、趣味の庭いじりや、古
木株の磨きだしに精を出していた。室
内には夥しい数の磨いた杉古株の壺類
で溢れている。

趣味を持ち
続けることが
若さを保つ秘
訣かもしれま
せんね！



これからもお元気で頑張
つて下さい。

(阿部正紀・記)



春のお彼岸法要の レポート



春の彼岸法要が去る3月27日～29日、念信寺にて行われました。今回の法座は

講師 祖父江佳乃先生（名古屋有隣寺住職）
題目 阿弥陀仏様、
親鸞聖人の御法を伝える

先生ご自身が紹介され

ておりますように説教師
であることと分かりや

すいお話しで、私には
女流講談師のようにも思
えました。お祖父様も著
名な親鸞聖人の説教師（節談説教）だった
とお聞きしています。お父様は念信寺の
前住職とも交流があつたようです。その
ご縁や前評判もあつたのでしょうか、初

日一回目の法座には七十人ほどの参加者
で、大いに勉強させて頂きました。惜し
くも参加できなかつた方へ拙文でご報告

させていただきます。ご存知のお話しば
かりだとは思いますが、親鸞聖人の御一
生と阿弥陀様やご縁のあつた方々を列举

可思議光仏（阿弥陀仏）というのである。で、
淨土教の立場から阿弥陀仏を信じて念仏
家社会へと移つていく頃です。一家離散
の苦しい幼少期に母から「人の為、弱い
人の為に生きなさい」と言われた言葉が
一生通しての基本になつていています。幼
名は松若丸と呼ばれていたようです。

九歳で出家得度します。既に両親は亡く
なつていたとの説もあります。得度の際
の導師は天台宗青蓮寺の僧正慈円といわ
れ、比叡山延暦寺に入山し約二十年間修
行されたようです。しかし納得するもの
も得られず失望のうち下山し京都の街で
過ごします。その後、「ご縁でしょうか、
運命でしょうか、「法然上人」と出会う
けです。

法然上人の「阿弥陀仏の本願はすべて
の人々を救うのだから阿弥陀仏を信じて
一心に念佛すれば、皆ことごとく往生す
る」の言葉が苦惱していた親鸞聖人の心
に浸み込んでいったと言われています。
親鸞聖人二十九歳、法然上人六十九歳の
時だったようです。良い時代は長くは続
きません。一二〇七年、後鳥羽院（上皇）
による「承元の法難」で法然上人は四国
讃岐へ、親鸞聖人は越後国府へと流罪と
なります。既に妻帯していた親鸞聖人一
門は一二一四年信州路を経由して常陸（茨
城）稻田に落ち着いたとされています。『教
行信証』（国宝）はこの頃から執筆しはじ
めているようです。

親鸞聖人は「阿弥陀仏の働きかけで念
仏している人を自分の弟子だなどとはど
んでもない思い上がりだ」と常に言われ
ています。

約二〇年程の関東での生活を終えて六
十二歳の時に故郷京都へ帰り、また「清
貧の日々」を送るわけです。京都で様々
な著作をなさつて九〇歳の生涯を終えた
わけです。関東時代に一緒に修行した「唯
円」による親鸞聖人の語録『歎異抄』は
没後三〇年ほど後であったと言われてい
ます。想像を絶するご一生だったと思わ
れます。

せつかくの機会ですので、
私なりに理解しようとして
いる教えを一部を要約して
みました。（参考に。）

◎人間は苦惱するからこそ
宗教が必要になる。

◎他力本願とは、阿弥陀仏に手をあわ
せ念佛を称えれば皆救われるとの教え
※当たり前ですが自分でできる努力は頑張り
ましょう。

◎仏教では過去や未来でない、「今、こ
の時」を大事に生きましょうとの教え
◎「南無阿弥陀仏」とは感謝の意味で
す。お願い事の意味ではありません。



ていたそうですが、教祖になろうとした
り教団を作つたりはしなかつたそうです。
親鸞聖人が「思想家」と言われる所以の
ようです。

約二〇年程の関東での生活を終えて六
十二歳の時に故郷京都へ帰り、また「清
貧の日々」を送るわけです。京都で様々
な著作をなさつて九〇歳の生涯を終えた
わけです。関東時代に一緒に修行した「唯
円」による親鸞聖人の語録『歎異抄』は
没後三〇年ほど後であったと言われてい
ます。想像を絶するご一生だったと思わ
れます。

勉強中のおいさん

合掌

皆作永代経法要ご案内

梅雨の季節になりました。皆さまいかがお過ごしですか？御法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

●日時 六月二十四～二十六日

講師	日 時	午後一時半～	午後八時～
松月 博宣 先生	二十四日昼～		
糸島 海徳寺様	二十五日昼席		
ピアノ ミニコンサート	二十五日夜	法話	法話
山口芳弘さん 豊前市		ピアノ・法話	

●講師
松月 博宣 先生 二十四日昼～
糸島 海徳寺様 二十五日昼席
ピアノ ミニコンサート 二十五日夜
山口芳弘さん 豊前市

●松月先生のコメント

人は環境に育てられますが、

私たちには「仏さまのお話」を聞くことのできる環境に恵まれました。



次世代に同じ環境を整えていくとともに「永代経」を勤めお参りする意味だと思います。



昨年の皆作法要



●山口さんのコメント

この度、再び素敵な御縁を頂き、とても嬉しく思っています。心を入れて、演奏させて頂きます。よろしくお願いします。

●4月22日別院参拝
日豊教区・四日市別院 親鸞聖人七五〇回御遠忌法要が4月19日、23日に催されました。京都組からも22日にバスで540名ほどが団体参拝しました。念信寺からも当日は18名が参加。



西別院でお齋

お寺の催し・活動

◆5月11日 行事予定

二十八日講・婦人会役員会

◆5月23日京都組婦人役員研修会

みやこそ



今後の運営について、念信寺にて犀川の婦人会の役員さんと法中（お坊さん）が合いで話し合いを持ちました。

◆5月20日 犀川同朋会

年間6回、犀川のお寺を持ち回りで、「正信偈」を学んでいます。今回は念信寺が会場でした。



●5月30日 京都組坊守会

京都組の坊守（お寺の奥さん）の学習会です。念信寺が会場でした。



各小組、各お寺の婦人会の代表、役員さんの研修会です。今年は犀川小組の受け持ちで、念信寺が会場でした。



●行事予定
五月二十八～三十日
講師 伊藤 元 師
二十九日夜 落語会
六月27日（月）午後一時半
花熊恩高寺さんにて
犀川二十八日講・婦人会
7月8日（金）午前10時より念信寺にて
犀川小組 夏季婦人研修
7月11日（月）午後1時半より念信寺にて

あとがき

寺報発行が遅れてしましました。配布するのに、世話をさんには「迷惑をおかけしてすみません」今は四日市別院を取り上げました。葬送儀礼だけでなく生きるこの全体が、かつては家・村やさらじに広い範囲の地域社会との関わりのなかに自分で確認できたのでしょうか。別院や本山と自分との関わりが地つきでました。別院のお土産として、お取越し飴、四日市まんじゅう、てんぽーり梨などが思い出されます。

五月・六月は念信寺が会場の行事が目白押しでした。慌ただしく過ぎましたが、おかげで多くの方々にお目にかかる機会に恵まれました。

